



平成 27 年 1 月 9 日

各 位

会 社 名 シンワアートオークション株式会社
 代表者名 代表取締役社長 倉田 陽一郎
 (JASDAQ・コード2437)
 問合せ先 経理部長 益戸 佳治
 電話番号 03-5537-8024
 (<http://www.shinwa-art.com/>)

平成 27 年 5 月期第 2 四半期累計期間の業績予想値と実績値との差異
 及び平成 27 年 5 月期通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

平成 26 年 7 月 11 日に公表しました平成 27 年 5 月期第 2 四半期累計期間（平成 26 年 6 月 1 日～平成 26 年 11 月 30 日）の連結及び個別の業績予想値と、本日公表の実績値に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

また、平成 27 年 5 月期（平成 26 年 6 月 1 日～平成 27 年 5 月 31 日）の通期連結業績予想を、下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 連結業績予想と実績値の差異及び連結業績予想の修正について

平成 27 年 5 月期第 2 四半期（累計）連結業績予想値との差異
 （平成 26 年 6 月 1 日～平成 26 年 11 月 30 日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 四半期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	829	59	49	23	円 銭 4.12
実 績 値 (B)	816	△12	△15	△24	△4.37
増 減 額 (B-A)	△13	△ 71	△65	△48	—
増 減 率 (%)	△1.7	—	—	—	—
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 26 年 5 月期第 2 四半期)	568	70	63	47	9.24

平成 27 年 5 月期通期連結業績予想数値の修正
 （平成 26 年 6 月 1 日～平成 27 年 5 月 31 日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	2,161	238	219	134	円 銭 23.73
今 回 修 正 予 想 (B)	3,728	304	286	163	28.79
増 減 額 (B-A)	1,567	66	66	28	—
増 減 率 (%)	72.5	27.8	30.2	21.5	—
(ご参考) 前期実績 (平成 26 年 5 月期)	1,385	135	122	108	20.39

(注) 当社は、平成 25 年 12 月 1 日付で当社普通株式 1 株につき 100 株の割合で株式分割を行いました
 ますが、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1 株当たり四半期純利益及び
 1 株当たり当期純利益を算定しております。

＜差異及び修正の理由＞

当第2四半期連結累計期間は、再生可能エネルギー関連事業において、平成26年6月から9月までに50kW級の小型太陽光発電施設4基の販売、同10月に9基の販売を当初見込んでおりましたが、一部電力会社の連系保留措置により、予定しておりました九州地区の50kW級小型太陽光発電施設3基の連系販売が保留・延期となりました。これにより、今後の電力会社との連系保留となるリスクを回避するため、取り扱う物件をさらに絞り込み、電力会社への本申請が終了し電力会社からの系統連系工事負担金請求書を受領している、確実に連系可能な発電施設の建設請負・施工・販売事業のみに限定することといたしました。

このような状況において、平成26年9月以降、特に50kW級のような低圧型太陽光発電施設の取り扱いを増やすことで早期に建設工事を終えて電力会社との連系を急ぐ動きが加速し、これにより当社グループでは、平成27年3月までの販売体制を大幅に強化する必要に迫られることとなり、結果として販売費及び一般管理費が当初見込みより大幅に増加することとなりました。

また当社グループにおいて、平成26年12月連系及び平成27年3月連系の小型太陽光発電施設建設物件が増加したため、業務の遂行上、当第2四半期連結累計期間の連系販売予定の物件のうち一部を、平成26年12月の連系販売に切り替えたため、当第2四半期連結累計期間は6基のみの販売となりました。

また、当社所有の宮崎県西都市の穂北太陽光発電所（1MW級）の売電収入は、天候が例年より荒天であったため、予想を若干下回る結果となり、これらが、当第2四半期連結累計期間の連結業績予想値と実績値との差異の主な要因であります。

通期の連結業績予想につきましては、再生可能エネルギー関連事業において、50kW級小型太陽光発電施設の販売が、グリーン投資減税の追い風を受けて順調な消化を見せており、また平成27年3月末に向けて本格的な完工・連系ラッシュとなる見込みであります。

一部電力会社の連系保留措置による太陽光発電分野の再生可能エネルギー固定価格買取制度に対する懸念が高まる中、現在、当社グループでは、電力会社への本申請が終了し、電力会社から系統連系工事負担金請求書が送付された、確実に電力会社との連系が可能な案件の建設請負・施工・販売事業のみに注力しており、その結果、平成26年12月には、50kW級小型太陽光発電施設10基の連系販売を完了いたしました。

今後につきましては、平成27年1月に同小型太陽光発電施設20基の販売を、さらに同3月には26基の販売を予定しております。また、高圧型太陽光発電施設の販売につきましては、平成27年2月に500kW級の、同3月に800kW級の太陽光発電施設の完工・連系・販売をそれぞれ見込んでおります。

なお、平成27年4月以降につきましては、再生可能エネルギーの固定価格買取制度の見直しが実施される可能性が高いことから、事業計画に組み込むことを見合わせ、見直し後の新たな制度を見極めた上で、より精度の高い事業計画に刷新する予定です。

以上により、当連結会計年度の再生可能エネルギー関連事業は、平成27年3月末に向けて、50kW級小型太陽光発電施設の販売件数が、当初計画値を大幅に上回る見込みであり、従いまして、当社グループの平成27年5月期通期の連結業績予想数値を、上記のとおり修正するものであります。

2. 個別業績予想と実績値の差異について

平成 27 年 5 月期第 2 四半期（累計）個別業績予想値との差異
（平成 26 年 6 月 1 日～平成 26 年 11 月 30 日）

（単位：百万円）

	売上高	経常利益	四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	554	29	5	円 銭 1.01
実 績 値 (B)	542	18	8	1.25
増 減 額 (B-A)	△11	△11	2	—
増 減 率 (%)	△2.1	△37.6	51.3	—
（ご参考）前期第 2 四半期実績 （平成 26 年 5 月期第 2 四半期）	564	77	60	11.68

（注）当社は、平成 25 年 12 月 1 日付で当社普通株式 1 株につき 100 株の割合で株式分割を行いました
たが、前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1 株当たり四半期純利益を算定し
ております。

<差異の理由>

美術品取引業界においては、昨年来の先高期待感のある市況から、政局を反映した格好で一服感が
でている状況にあります。そのような中、当第 2 四半期累計期間は、主力の近代美術オークションを
中心に全体的に好調な結果を収め、取扱高及び売上高は、共に前年同期を上回る実績値となってお
り、業績予想値に対しても概ね順調に推移しております。経常利益は、販売費及び一般管理費の増加
により減少しております。予想値及び実績値ともに絶対値が小さいことから増減率では大きく減少し
たかたちになっておりますが、概ね想定内の差異であり、下半期での取り戻しが可能であると
考えます。従いまして、通期の個別業績予想につきましては、前回公表値を据え置くものとします。

※上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の
業績は今後様々な要因によって予想値と異なる結果となる可能性があることにご留意ください。

以 上